

戸建て住宅向け防水シート市場に参入

住友林業が開発協力

住友スリーエム(株)は、住友林業(株)(東京都千代田区 社長:矢野 龍)の協力により開発した止水機能付外壁防水シートで、住宅外壁用の防水シート市場に参入します。製品は、タッカー釘による貫通孔等からの雨水の浸入に対して、より確実な「止水機能」を持つ住宅外壁用の防水シートです。

戸建て住宅では、外壁からの漏水対策としてあらゆる部材や施工技術に慎重を期して施工されています。幾重にも雨水の浸入を防ぐ雨仕舞を講じるのは標準的な工法であり、外壁に防水シートを利用するのも雨仕舞の一つです。外壁がモルタル仕様の場合には、防水シートとしてアスファルトフェルトを用いた施工が一般的とされています。

外壁の下で二次的な止水の役割となる防水シートは、通常、下地材にタッカー釘を用いて固定されます。そのため万一のトラブルから雨水が外壁を通過し防水シートまで浸入した場合、タッカー釘による貫通孔や防水シートの重ね部分を伝って雨水が浸入し漏水が発生する可能性があります。

住友林業(株)と協力して開発した止水機能付外壁防水シートは、タッカー釘による貫通孔等からの雨水の浸入に対して、より確実な「止水機能」を持つ住宅外壁用の防水シートです。

ポリオレフィン基材のシートで、建物本体と接する面に独自の吸水コーティング層を設けています。タッカー釘による貫通孔や防水シート重ね部分から万一雨水が浸入した場合でも、吸水コーティング層が水分を吸収、膨潤することで貫通孔を塞ぎ漏水を防ぎます。モルタルに接する面には密着性を高めるために不織布層を設け、モルタルに生じたクラックなどから浸入しようとする雨水を阻止します。

また、半透明のためタッカー利用時に下地が確認できることからタッカー釘の打ち損じを予防できるほか、施工後でも室内が暗くなりません。さらにアスファルトフェルトに比較して約40%軽く柔軟性があるなど作業性の向上にも寄与します。

開発にあたっては、住友林業(株)の協力により止水性の評価基準を策定、同社筑波研究所等において実物モデルでの流水試験等を行い、部材や施工手順をふまえた防水性能を確認しています。

住友林業(株)の新築物件では採用が始まっているほか、今後モルタル仕上げの外壁を採用している住宅メーカー、工務店等に積極的に展開を行うため、このほど性能評価用サンプルの出荷を開始します。製品仕様・価格は、現段階では未定です。

止水機能付き外壁防水シートについてのお問い合わせは、
住友スリーエム カスタマーコールセンター
0570(011)511

